

施工マニュアル

ベストマンパレット (BP800)

— 特性 —

ベストマンパレットはヤシ繊維基盤に植物を植え付け、圃場で育成させた座布団状の植物苗です。植え付けられている植物は主に水生、湿生植物で、根系が十分に発達しています。大きさは1枚当たり1㎡で、取り扱いやすくスピーディーに現場に設置することが可能です。

ベストマンパレットは一般的に河岸、湖岸、遊水池および湿地帯に使用されます。広い面積を充実した植生で覆うことで、水際や法面を保護し、河岸や湖岸を浸食から守ります。また、ベストマンパレットの設置によって、目的にあった在来植物群落を形成させることが可能で、景観的にも優れたものとなります。それにともない外来植物（セイタカアワダチソウ、アメリカセンダングサ等）の生育を抑制させることができます。

根系の充実した植物体と、耐久性があり生物分解性のあるヤシ繊維素材との組み合わせは、河岸や湖岸を浸食からしっかりと守ります。さらに、植物の生育に伴い植物の周辺に堆積作用が起こることによって、安定した環境が形成されます。

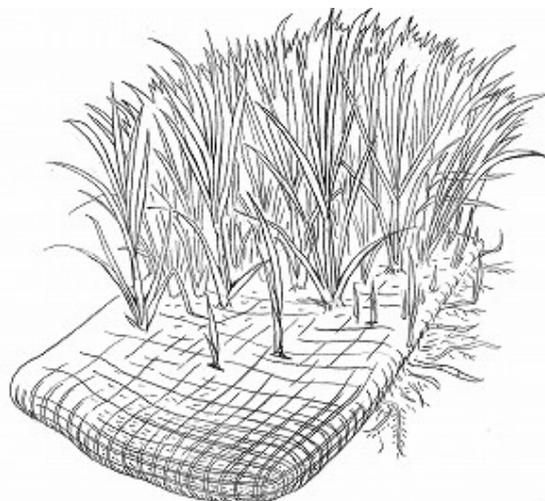
— 仕様 —

ベストマンパレット

BP-800 : 0.8m×1.25m(±10%)

重量 (参考) : 植栽されている植物の種類によっても異なりますが、水を切った状態で
おおよそ 15~20kg/㎡です。

厚み (参考) : 4cm 内外 (座布団状の形状をしており、均一でないため参考値として下さい)



— ベストマンパレット設置の流れ —

1. 設置高の設定
2. 地ごしらえ
3. ベストマンパレットの設置
4. ベストマンパレットの固定
5. 目土かけ
6. 施工終了時の確認

設置は以上の手順で進めてください。現場状況によっては、この手順を進めることが困難な場合があります。ベストマンパレットは導入植物種にもよりますが、年間平水位に対して水深 25cm より上を基準位置とし単独で使用できますが、通常はベストマンロールの後背地の岸に設置します。固定はくさび型止杭やシュロ縄、ロープ等によって行いますが、最終的な固定は植物が土中に根を張ることで完成します。

以下に各項目について説明を記載しております。施工に際しましては必ず目を通してから行って下さい。特に植物を扱う項目に関しましては、誤った施工をされますと植物が良好に活着しないばかりか、場合によっては枯死してしまうおそれもありますので、植物の取り扱いには十分にご注意下さい。

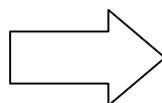
— 設置に際しての注意事項 —

正しい施工が行われなかった場合や、極端に波や流れの激しい場所、または乾燥し易い場所に設置された場合、ベストマンパレットはその機能を十分に発揮できない場合があります。製品の設置場所や方法についてはベストマングリーンシステム協会が適切なアドバイスを致します。

また、植物は生き物です。特に水分の不足は植物に重大なダメージを与えます。納品後は速やかに施工して下さい。万が一すぐには施工に取り掛かれない場合や、河川を締め切っていて施工後に十分な水分が確保できない場合などは、極端な高温や直射日光が当たり続けるような環境を極力避け、十分な水分を与えて保管して下さい。製品の設置や仮置きが適切に行われず植物体が枯死した場合、ベストマングリーンシステム協会は一切の保証を致しません。



施工直後

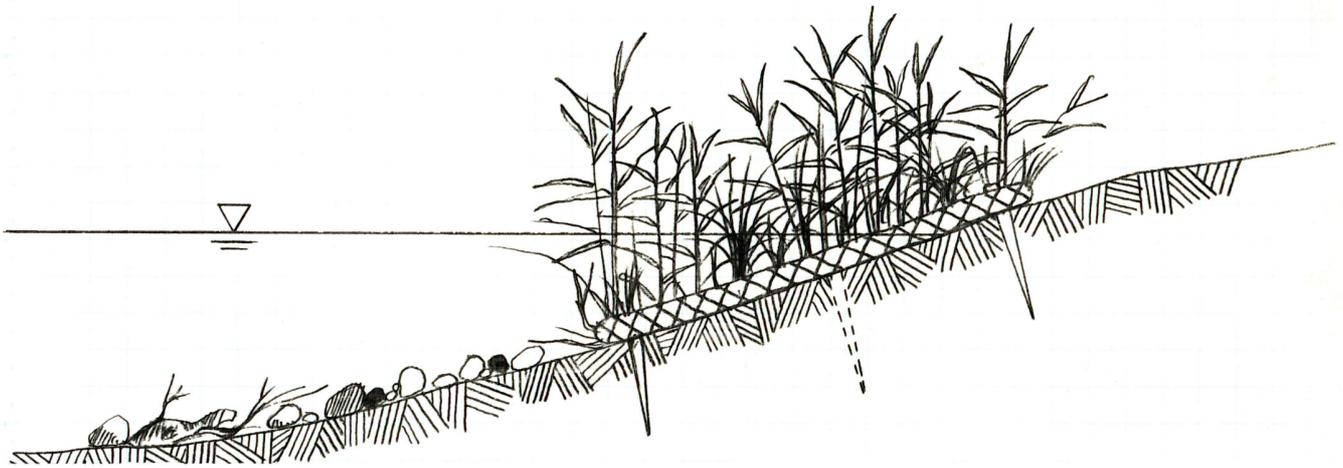


施工約2ヶ月後

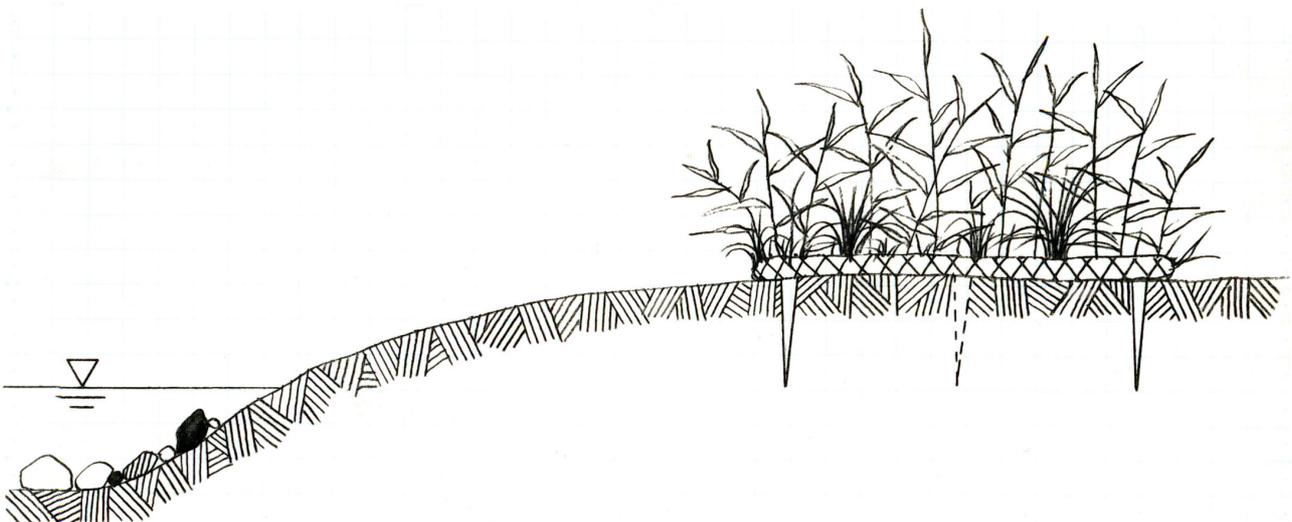
1. 設置高の設定

ベストマンパレットには主として水生、湿生植物が植栽されています。平水位を中心に製品の設置が可能ですが、導入植物種や施工時期、水位変動のリズムによって設置位置には注意が必要です。極端に勾配のきつい場所や、乾燥しやすい場所ではベストマンパレットが良好に活着しない場合があります。水分が十分に確保出来る高さに設置高を設定して下さい。

- a. 適切な設置の一例：設置した製品の約3分の2程度が水中浸かる状態



- b. 不適切な設置の一例：設置高が水面より遥かに高く、乾燥しやすい状態
→ 良好な活着が期待できない。この場合、設置高を下げる必要がある。
(※水分が十分に確保できる場所であれば、この様な設置も可能)



2. 地ごしらえ

ベストマンシステム製品を設置する際、最も重要なことは植物を確実に活着させることです。設置する場所は必要に応じて、保水材や肥料の添加などの土壌改良を行わなければなりません。また、設置場所が重機によって押し固められた状態では根系の発達が妨げられ、良好な活着が期待できません。設置前には必ず耕転を行って下さい。また、ベストマンパレットと地面との接地面に空間が生じないように、大きな石や流木等がある場合には必ず取り除いて下さい。

3. ベストマンパレットの設置

製品が現場に到着したら直ちに設置を行って下さい。設置の際には植え付けられている植物が出来る限り傷つかないように、取り扱いに十分注意して下さい。

製品を隣接して設置する場合、お互いをシュロ縄等で結束する必要があります。(ベストマンロールと併用する場合は、ロールを設置した後にベストマンパレットを設置し、両者をシュロ縄等で縫い合わせます。)

4. ベストマンパレットの固定

パレットの固定には通常、切れ込みの入った長さ 45cm のくさび形止杭とシュロ縄を使用します(次頁 図1 参照)。敷設したベストマンパレットの四隅と中央に、計 5 本の杭を 8 分目程度まで打ち込みます。打ち込んだ杭の切れ込み部分に引っ掛けるようにしてシュロ縄を渡します。ベストマンパレット同士が隣り合う部分は、その間にもシュロ縄を渡し、一連のものとして下さい。全ての杭にシュロ縄を渡し終えたら、そのシュロ縄でベストマンパレットが押さえつけられるように、十分に杭を打ち込み、しっかりと固定して下さい。その他、現場の状況に合わせて、鉄筋杭やアンカーボルトによる固定方法を適用します。



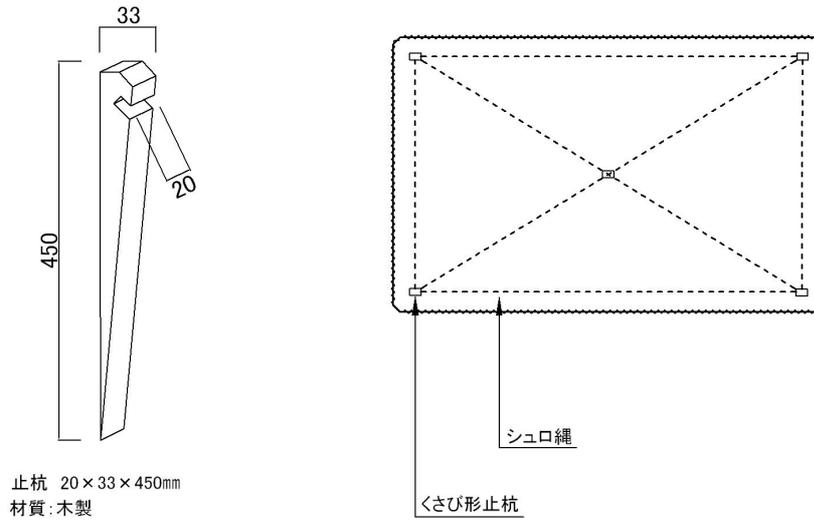


図1：止杭配置位置とシュロ縄のまわし方

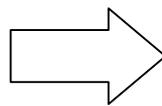
5. 目土かけ

製品の設置が水面上となる場合は必ず目土かけを行って下さい。目土かけをした後、すぐに水をまき、上からかけた土がヤシ繊維と根系の間隙を埋めて水分を保持するようになります必要があります。ヤシ繊維の基盤は水切れがよく保水能力がほとんどないため、この作業を行わないと植物が枯死する可能性があります。目土は厚さ2 cm程度を目安として下さい。

また、ベストマンパレットの末端部は弱い部分です。必要に応じて、溝を掘って末端部を埋める、置き石をするなど、水流によってめくれ上がらないようにして下さい。



設置直後の状態



目土かけ後

6. 施工終了時の確認

全ての手順が終了したらベストマンパレットに何らかの破損がないか確認して下さい。万が一、製品のネットが破損していたらシュロ縄等を使用して補修して下さい。補修をせずに施工を終えると、破損個所からヤシ繊維が吸い出される恐れがあります。